

## 腸管出血性大腸菌感染症の複数発生事例が確認されました

前橋市内の保育施設において令和3年6月15日（火）以降、腸管出血性大腸菌感染症に関連する患者が4人確認されました。

### 1 概要

- (1) 施設名称等 駒形こども園（市内永明地区所在「幼保連携型認定こども園」）  
在籍数162人 職員数54人（以下「施設」という。）
- (2) 原因菌 腸管出血性大腸菌
- (3) 陽性者数 4人（6月23日現在）

### 2 経過

#### ○6月14日（月）

- ・市内医療機関より施設に通う園児2人が溶血性尿毒症症候群（HUS）になり入院中である旨の連絡を受ける。
- ・市保健所から施設に確認したところ嘔吐下痢症状者が10人以上いることが判明し、施設調査を開始

#### ○6月15日（火）

- ・施設に出向き現場調査
- ・前日新たに入院となった園児1人を把握
- ・検査対象者を選定
- ・医療機関から患者1人（3歳児）の腸管出血性大腸菌発生届（O群不明、VT2）を市保健所で受理
- ・当該園児について調査を開始

#### ○6月16日（水）

- ・新たに検査対象者を選定
- ・随時有症状者の検査対象者を拡大
- ・市保健所にて検体の検査を開始

#### ○6月21日（月）

検査の結果、1歳児2人、5歳児1人の陽性が判明。

### 3 保健所の対応

- ・施設に対し園児、職員の健康状態の報告、感染拡大防止対策（手指消毒の徹底、園児及び職員の検便、施設内の消毒）を指導
- ・陽性者、施設への積極的疫学調査の実施
- ・対象者の拡大検査を実施

### 4 市民への周知、啓発

市ホームページやフェイスブック等において下記事項を周知、啓発していく。

#### (1) 病気について

- ・腸管出血性大腸菌（O157など）が口から体中に入ることでおこります。

- ・潜伏期間は3～9日で、主症状は下痢・腹痛・血便・発熱などです。
- ・抵抗力の弱い乳幼児や高齢者が感染すると、溶血性尿毒症症候群（HUS）になり重症化することがあります。

(2) 予防対策について

- ・腸管出血性大腸菌に汚染された食品等を介して感染します。また、少ない菌でも発症することがあり、患者の便を介して家族などへ感染が拡大することもあります。
- ・手洗いを励行しましょう。
- ・食材はよく洗い、十分に加熱調理して食べましょう。
- ・下痢や腹痛などの症状がある人は、医療機関を受診しましょう。
- ・症状のある人は、家族と一緒に入浴せずに最後に入りましょう。浴槽に入るときには石けんで体を洗ってから入りましょう。また、入浴後は水を抜いて浴槽を洗いましょう。
- ・症状のある人の下着は、塩素系漂白剤でつけ置き消毒し、家族のものとは分けて洗濯しましょう。

※お願い

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、感染者及び感染者家族等に対し、個人情報保護をはじめとする、人権保護に特段のご配慮をお願いいたします。

**本件に関するお問い合わせ先**

**保健予防課 感染症対策係**

電 話 直 通 0 2 7 - 2 2 0 - 5 7 7 9